



2006 年 6 月 19 日から 21 日にかけて、韓国政府の招へいにより、首都ソウル市の韓国農村経済研究院（KREI）において、AGLINK モデルに関するセミナーを行うとともに、韓国側の専門家と非公式協議を行った。

今回の出張の目的は、OECD が開発した農産物に関する部分均衡モデルである AGLINK モデルを韓国の研究者に普及するとともに、その実践的な活用方法を伝達する事である。

まず、19 日は、KREI において、「OCED Agricultural Outlook Process and AGLINK Model」と題した講演を行った。その内容は、OECD の中長期見通しにおいて、AGLINK モデルがどのように活用されているか、その過程に関する概要を紹介するとともに、AGLINK モデルの構造と、それを利用したシナリオ分析の実例を紹介した。シナリオ分析は、アメリカにおける BSE の発生に伴う日韓など太平洋諸国の禁輸の実施により、国際価格がどの程度影響を受け、その結果、日韓の牛肉市場や需給構造にどのような影響を与えているかの分析を取り上げた。また、OECD の見通しのプロセスは、OECD と加盟各国のギブアンドテイクの関係であり、よりよい見通しを作成するためには、その出発点である OECD からの Questionnaire（質問表）に記載されている需給・価格などの日韓の農産物市場の現状を正確に記載し、モデル分析を行う際の最初の作業であり、もっとも労働集約的な作業であるデータベース作成作業に積極的に協力することが重要である点を強調した。

20～21 日にかけて、KREI の AGLINK モデル担当者との少人数の専門家協議を実施した。その目的は、実際に AGLINK モデルを

操作することにより、それに習熟するとともに、AGLINK モデルの最も重要な付加価値であるシナリオ分析を韓国側が自力で行う事を可能とする事である。

まず、AGLINK モデルを構成する 1 つの部門である韓国モジュールを取り上げ、その終了までのプロセスを段階を追って操作し、モデルの概要の把握を促進した。

このプロセスは、実際には複数の計量経済ソフトウェアを用いるかなり複雑なものであり、SORITEC および SIMPC という、2 つの重要なソフトウェアが行う回帰分析や均衡解の発見という重要なモデル構築作業を日韓両方の PC 上で実施した。

次に、AGLINK 上の韓国のコメ部門を取り上げた。韓国のコメの輸入は WTO 合意により年々の輸入割当量が決定されているため、輸入量は外生変数としての定義が可能である。そして、これらの輸出入量を含む需給の均衡により、国際市場価格とは無関係に、韓国一国の需給事情でコメの卸売価格が決定されると考えるのが自然である。

このため、現在外生変数として定義されている卸売価格を、需給均衡価格として年々内生的に決定される、いわゆる Market Clearing Condition を導入し、内生変数に変更する作業を行った。

今回の招へい出張を通じ、KREI の専門家が AGLINK モデルの内部に対する理解を深めるという目的に貢献できたと思うが、AGLINK モデルの規模から考えて、2 日間の協議は短すぎる感があり、説明もややもすれば簡略化したものにならざるを得なかった。

AGLINK モデルを扱う事は、日韓それぞれの農産物市場を、それらに影響を与えている政策の役割を含めて理解する事に役立つ。今後も本件に関する日韓の交流を深める事により、それぞれの農産物市場分析作業等に貢献することとしたい。